

# 令和 2 年度業務実績評価

## ■ 令和2年度業務実績評価

---

全体評価：中期計画の達成に向け、  
『優れた業務の進捗状況にある』（A評価相当）

### ○ 高く評価すべき事項

- ・ 東京都立産業技術研究センター(以下「都産技研」という。)は、研究開発と技術支援の両面で様々な事業を展開し、各目標値の達成や中小企業の製品化等に貢献しており評価できる。
- ・ 東京都の施策と連携し「中小企業の5G・IoT・ロボット普及促進事業」等に取り組んでおり、特に公設試としてはじめて先端技術の5Gを活用した支援を開始したことは評価できる。
- ・ 研究開発については、重点技術分野の研究開発を進め、論文数が過去最高となっている。また、都産技研の総合力を生かした「協創的研究開発」の実施に加え、外部資金導入研究の歳入総額が第三期で最高となっていることも高く評価できる。

### ○ 改善・充実を求める事項

- ・ 新たに設置した内部監査部の機能を十分に発揮させ、適正な運営を維持していくことが望まれる。
- ・ 東京都のDX化をリードするべく、都産技研自身のDX化を積極的に進める取組を講じていくことが望まれる。

# 令和2年度業務実績評価

中期目標を達成するために取るべき措置	項目番号	年度評価					中期目標期間評価	
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	見込評価	期間実績評価
I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置								
基盤研究	1	A	A	S	S	S	S	S
共同研究	2	B	B	A	A	A	A	A
外部資金導入研究・調査	3	B	B	A	S	S	A	A
ロボット産業活性化事業	4	A	A	A	A	A	A	A
生活関連産業の支援	5	B	B	B	B	A	B	B
技術相談	6	B	B	B	B	B	B	B
依頼試験	7	A	A	A	A	A	A	A
機器利用サービスの提供	8	A	A	A	A	A	A	A
3Dものづくりセクター	9	S	S	S	S	A	S	S
先端材料開発セクター	10	A	A	S	A	A	A	A
複合素材開発セクター	11	B	A	A	A	B	A	A

オーダーメイド開発支援	12	A	A	B	B	A	A	A
製品開発支援ラボ	13	B	B	A	A	A	A	A
実証試験セクター	14	A	S	A	A	A	A	A
技術経営支援	15	S	A	A	A	A	A	A
技術審査	16	S	A	A	A	A	A	A
海外展開技術支援	17	A	A	A	A	A	A	A
産学公金連携による支援	18	A	A	B	B	B	B	B
行政及び他機関との連携	19	B	B	B	B	B	B	B
産業人材の育成	20	B	B	B	B	B	B	B
情報発信・情報提供	21	A	A	B	B	A	B	A
II 業務運営の改善及び効率化に関する事項								
組織体制及び運営、効率化、経費削減	22	B	B	B	C	B	B	B
III～VIII 財務内容の改善に関する事項、その他業務運営に関する重要事項等								
適正な資産管理等	23	B	B	B	B	B	B	B
危機管理対策、社会的責任	24	B	B	B	B	B	B	B

**S評価：2個、A評価：14個、B評価：8個**

# ■ 令和2年度業務実績評価

## 項目1 基盤研究

### S（年度計画を大幅に上回って実施している）

- 基盤研究からの成果展開について、コロナ禍で円滑に研究が行えない中であっても、**基盤研究からの成果展開や協創的研究開発の実施**実績を上げることが出来ている。
- 基盤研究の量的・質的な**向上に取り組み**、論文数は過去最高の実績を達成した。

論文数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	41	51	53	59	67

⇒コロナ禍にあっても基盤研究からの成果展開の実績を上げており、評価できる。  
また、論文数が過去最高の実績となっており、第三期に重点的に取り組んできた基盤研究への取組の成果が**具現化**していることは高く評価できる。

## 項目2 共同研究

### A（年度計画を上回って実施している）

- 中小企業等との共同研究により、製品化・事業化件数は例年より多い11件を達成した。

製品化・事業化	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	10	15	10	8	11

- I o T分野において、研究会やセミナーなどの取組を着実に実施した。

⇒共同研究の製品化・事業化件数が高い水準にあることは評価できる。

# ■ 令和2年度業務実績評価

## 項目3 外部資金導入研究・調査

### S (年度計画を大幅に上回って実施している)

■ これまで継続している外部資金獲得に向けた取組の成果として、高水準の採択件数や歳入総額を達成している。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
採択実績(件)	32	25	35	56	44
歳入総額(千円)	116,582	80,887	109,066	236,318	262,448

■ 外部資金導入研究から着実に特許等出願などの成果展開につなげている。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
特許等出願実績(件)	2	4	13	5	6

⇒外部資金獲得に向けた申請書のブラッシュアップ等の取組を継続した結果、第三期で最高の外部資金を獲得できたことは高く評価できる。

## 項目4 ロボット産業活性化事業

### A (年度計画を上回って実施している)

■ 製品化・事業化について、着実に実績を積み重ねている。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
製品化・事業化実績(件)	3	4	9	13	5

■ 羽田イノベーションシティでのロボットの展示など、様々な機を逃すことなく、都産技研の成果の普及に向け、積極的に情報を発信している。

⇒今後とも、ニーズを踏まえ、5G技術の活用を含めた支援を進めていくことを期待する。

また、新しい取組の成果について、積極的に情報発信を行うことを期待する。

# ■ 令和2年度業務実績評価

## 項目5 生活関連産業の支援

### A（年度計画を上回って実施している）

- プラスチック代替素材を活用した開発・普及プロジェクトなど、プロジェクト事業において、計5件の公募共同研究、10件の基盤研究を実施し、着実に研究開発を進めている。
- ヘルスケア産業支援室を本部に新たに開設し、市場の拡大を見据えた新たな分野における支援にも挑戦している。

⇒着実に研究開発を進めるとともに、新たな支援分野を開拓したことは評価できる。

## 項目6 技術相談

### B（年度計画を概ね順調に実施している）

- 技術相談の件数は、コロナ禍にあっても中期計画目標値の97%となった。

相談	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	138,165	136,666	139,835	141,673	116,546

- **コロナ対策として**、メールやweb会議システムを活用した相談を新たに開始するなど、非対面・非接触での支援も実施している。

⇒今後とも、都産技研を必要とする企業が利用しやすい環境構築を行われたい。

# 令和2年度業務実績評価

## 項目7 依頼試験

### A (年度計画を上回って実施している)

- 中期計画目標値である、ブランド試験の比率は目標値の23%を超える、35%を達成

ブランド試験割合	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績 (%)	31	32	34	33	35

- コロナに対応して、郵送による受付を行うなど柔軟な対応により、支援の継続性を保った

⇒中期計画目標値を超える実績を維持していることは評価できる。

## 項目8 機器利用サービスの提供

### A (年度計画を上回って実施している)

- **機器利用**は利用者の来所が必須であるが、コロナ禍にあっても、10万件以上の機器利用を実施

機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績 (件)	134,285	144,737	157,541	140,901	103,425

- 5G基地局を整備し、**新たに都内中小企業のデジタルトランスフォーメーション**を支援する施設として、DX推進センターを開設し、支援を開始

⇒コロナ禍にあっても、確実に支援を実施している。

特に、全国の公設試に先駆け、DX推進センターを開設し、**新たな事業を展開していること**は評価できる。

今後とも、**利用頻度などのデータを分析して、機器の充実・廃止などの見直しを計画的に実施してほしい。**

# ■ 令和2年度業務実績評価

## 項目9 3Dものづくりセクター

### A (年度計画を上回って実施している)

- 依頼試験及び機器利用の支援実績は、中期目標値を超える実績を達成している。

依頼試験+機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績(件)	24,448	24,033	28,209	36,202	24,184

- 開発を支援した製品が外部のコンペティション等で受賞、または、使用した選手が大会で優勝するなど、質の高い製品開発支援を行っていることが証明されている。

⇒高い利用実績水準を維持し、支援した製品が高いクオリティを有することは評価できる。今後とも、造形技術の進展に合わせた支援を実施していくことが望まれる。

## 項目10 先端材料開発セクター

### A (年度計画を上回って実施している)

- 中期計画目標値には及ばなかったが、コロナ禍にあっても、利用実績は堅調であった。

依頼試験+機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績(件)	5,792	5,487	7,876	8,001	6,651

- 論文掲載件数は昨年度より3件増加し、2年連続の増加となった。

⇒論文投稿を積極的に実施したことにより、掲載件数が2年連続で増加していることは評価できる。



# 令和2年度業務実績評価

## 項目1.1 複合素材開発セクター

### B (年度計画を概ね順調に実施している)

- 利用実績はコロナ禍とはいえ、他の項目と比較しても減少幅が大きく、前年度比で約半減している。

依頼試験+機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績(件)	15,854	19,731	20,176	23,083	12,804

- 先端技術だけでなく、伝統的な技術についても支援を行っている。

⇒引き続き、先端技術及び伝統的技術についての支援を**着実に**実施していくことを望む。

## 項目1.2 オーダーメイド開発支援

### A (年度計画を上回って実施している)

- 中期計画目標値を上回る**開発支援**実績を達成している。

開発支援	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績(件)	450	520	504	592	463

- 新型コロナに対応した製品の開発支援を行っており、**試作品を含む**製品化・事業化件数も高い水準を維持している。

製品化・事業化	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績(件)	56	60	57	64	63

⇒目標値を上回る実績を達成したこと、新型コロナに対応した製品の開発支援も行っていることは評価できる。

# ■ 令和2年度業務実績評価

## 項目13 製品開発支援ラボ

### A (年度計画を上回って実施している)

- ラボ入居企業の製品化・事業化件数は昨年度並みを維持し、売上も堅調である。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
製品化・事業化(件)	12	14	9	10	10
売上(千円)	363,871	316,278	1,852,854	5,554,048	1,555,892

- ものづくりベンチャーの支援に向けた支援を新たに開始している。

⇒ラボ入居企業が順調に実績を上げており、新たにものづくりベンチャーに対する支援も開始したことは評価できる。

今後とも、ラボ入居企業が飛躍的な成長を遂げることができるよう、支援していくことを期待する。

## 項目14 実証試験セクター

### A (年度計画を上回って実施している)

- コロナ禍にあっても、効率的な利用ができる環境を整えたことで、**中期計画目標値を超える**高水準の実績を達成している。

依頼試験、機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績(件)	68,123	74,969	70,891	62,481	60,008

- 大規模リニューアル後の利用促進に向け、設備を紹介する動画を作成し公開するなど、積極的な情報発信に努めている。

⇒効率的かつ利用しやすい環境を整えたことで、中期目標値を超える実績を達成していることは評価できる。

# ■ 令和2年度業務実績評価

## 項目15 技術経営支援

### A (年度計画を上回って実施している)

- 中期計画目標値の達成に向け特許等の実施許諾件数は高水準の件数を達成している。

実施許諾	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績 (件)	7	8	17	13	14

- 中小企業振興公社との連携セミナーをオンラインで開催するなど、新たな連携支援も実施している。

⇒実施許諾件数が高水準であることは評価できる。

今後、中小企業振興公社との連携を一層推進し、支援の充実を図ることを期待する。

## 項目16 技術審査

### A (年度計画を上回って実施している)

- 技術審査件数について、コロナ禍でも例年並みの高い水準を維持

技術審査	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績 (件)	5,200	5,508	5,859	5,667	5,141

- 年度途中で発生したコロナ関連の補正予算事業への審査に対しても迅速に対応している。

⇒高水準の技術審査件数を維持するとともに、突発的な案件にも迅速に対応したことは評価できる。

# ■ 令和2年度業務実績評価

## 項目17 海外展開技術支援

### A（年度計画を上回って実施している）

- 中期計画目標値を超える国際規格対応依頼試験の利用実績を達成している。

依頼試験	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	6,087	6,649	6,358	6,007	5,387

- MTEP専門相談員のオンライン相談を新たに開始するなど、昨年度に引き続きオンラインの取組を充実させている。

⇒中期計画目標値を超える支援実績があることは評価できる。  
引き続きオンラインでの支援も継続していくことが望まれる。

## 項目18 産学公金連携による支援

### B（年度計画を概ね順調に実施している）

- ビジネスマッチング会をオンラインで開催し、昨年度よりも10社多い61社の出展企業を確保した。
- 首都大学東京（現東京都立大学）や金融機関など多様な主体との連携支援を行い、商談の成功につなげている。

⇒今後、産学公金連携の取組を一層進め、中小企業の円滑な製品化・事業化を支援することを望む。

# ■ 令和2年度業務実績評価

## 項目19 行政及び他機関との連携

### B（年度計画を概ね順調に実施している）

- 新たに2機関と連携協定を締結し、技術審査をはじめ事業の協力を進めている。
- 中小企業振興公社の事業と連携し商品化に貢献するなど、技術と経営の両面から支援を行っている。

⇒今後とも、多様な機関と連携した支援の実施を望む。特に、中小企業振興公社との連携による技術と経営の両面からの支援は重要であり、一層の充実を望む。

## 項目20 産業人材の育成

### B（年度計画を概ね順調に実施している）

- 技術セミナーや講習会は受講者から高い評価を受けている。
- セミナーのオンライン化を進めている（全体の22%）。

⇒**新型コロナ終息後も**、オンライン化率を一層高めていくとともに、受講者から継続して高い評価を受けることができるようにセミナーを実施していくことを望む。

**また、セミナー等を実施する職員側もオンラインで説明する力等を向上させていくことが必要である。**

# ■ 令和2年度業務実績評価

---

## 項目2-1 情報発信・情報提供

### A (年度計画を上回って実施している)

- Youtubeに動画を新たに54件投稿、施設見学においてV R映像を作成するなど、デジタルコンテンツの作成に力を入れている。
- 都産技研100周年事業を新たに開始し、一層都産技研をP Rする取組を進めている。

⇒V R映像や周年事業など、新しい取組を多く実施していることは評価できる。

今後は、認知度向上も意識して、戦略的な情報発信を**職員が一体となって、これまで以上に進めることを期待する。**

## 項目2-2 組織体制及び運営、効率化、経費削減

### B (年度計画を概ね順調に実施している)

- 内部監査部を新たに設置するなど、一層コンプライアンス推進を意識した体制づくりを行っている。
- テレワーク実施体制の整備やWeb会議サービスの新規導入を行うなど、業務のデジタル化がこれまで以上に進んでいる。

⇒**内部監査部の機能を十分発揮して、適正な運営を維持していくことが望まれる。**

**また、時勢に合わせた業務推進体制を整備していくことが望まれる。**

# ■ 令和 2 年度業務実績評価

---

## 項目 2 3 適正な資産管理等

### B (年度計画を概ね順調に実施している)

- 設備機器の校正・保守を適切に実施している。
- コロナによる減収に対応した補正予算編成等、財政面における機動的な対応を実施

⇒今後とも、地方独立行政法人制度のメリットを活かし、予算の柔軟な対応を行われたい。

## 項目 2 4 危機管理対策、社会的責任

### B (年度計画を概ね順調に実施している)

- 都産技研全体としてSDGsを意識した経営に努めている。
- ゼロエミッションを意識し、省エネルギーに向けた取組を進め、昨年度よりエネルギー使用量を削減出来ている。

⇒引き続き、SDGs やゼロエミッションを意識した取組を積極的に進め、他の都施設を牽引していくとともに、具体的な取組成果を対外的に発信していくことが望まれる。  
また、業務のDX化に合わせて、サイバーセキュリティ対策を十分に講じられたい。